

## 2 1920 年代の状況とガーシュイン

### ●1920 年代のブロードウェイ

ヴォードヴィル(レビュー)が中心、ストーリーはなくてもよい  
音楽はヨーロッパ風、アメリカ独自色は少ない

### ●ティンパン・アレイ

音楽ショップが軒を並べたニューヨークの通りの名  
音楽流通の中心は楽譜 → ヒット曲はテンパン・アレイから生まれた  
代表的な作曲家: バーリン (Irving Berlin, 1888-1989) 「ホワイト・クリスマス」など  
カーン(Jerome Kern, 1885-1945) 「煙が目にしみる」など

### ●ジャズの誕生と普及

ニューオーリンズで 20 世紀初頭に誕生。  
黒人たちが、アフリカ由来の独特のリズム感や音楽性と、アメリカで身につけたヨーロッパ系の音楽を  
土台にして生み出した新しい音楽  
1920 年ごろからアメリカ全土に普及、  
レコードを通じて世界中にも広まり、アメリカを代表する音楽として広く認知される。

### ●ガーシュイン

George Gershwin (1898- 1937)。米国の作曲家、ピアノ奏者。ロシア系移民の子としてニューヨークに生まれ、10 代になって初めてピアノにふれる。商業高校を中退後、音楽出版社のピアノ奏者兼宣伝係となり、仕事の合間に作曲にも手を染めた。1919 年《スワニー》がアル・ジョルスンによって歌われて大ヒットとなり、初のミュージカル《ラ・ラルシール》がブロードウェイの舞台にかかる。1922 年には、その題材と書法で《ボーギーとベス》の先駆をなす 1 幕オペラ《ブルー・マンデー・ブルース》を発表。1924 年、P. ホワイトマンの委嘱でそのジャズ・バンドのために書かれた《ラプソディ・イン・ブルー》が大反響を呼び、翌 1925 年には《ピアノ協奏曲へ長調》を完成、クラシック音楽界でもその名を高めた。その後、ミュージカル《ストライク・アップ・ザ・バンド》(1927 年)、交響詩《パリのアメリカ人》(1928 年)などを経て、黒人庶民を主人公にした画期的なオペラ《ボーギーとベス》(1935 年)を発表。20 世紀オペラの最高峰の一つとなったこの作品の誕生からわずか 2 年後、脳腫瘍のため 38 歳で死去した。



(マイペディア)

### ◆ジョージ・ホワイト・スキャンダル(1920-1924)

ジークフェルド的なヴァラエティ・ショー。歌や踊り、今度や曲芸が連なる。  
1922 年の舞台の中に、黒人だけによる小オペラ「ブルー・マンデー」が組み込まれた、

### ◆ガール・クレイジー(1930)

アイラ・ガーシュイン作詞、ガイ・ボルトン台本のミュージカル。両親の所有する田舎の地味な牧場にやってきた主人公が、そこをエンターテインメントでショーアップされた観光牧場に変えてしまう。ストーリーを変えて 3 回映画化。有名な「アイ・ガット・リズム」が含まれる。現在上演されている《クレイジー・フォー・ユー》は、この作品をベースに他のガーシュインの曲を交えて 1992 年に作られたものもの。